

# 令和8年産 大豆栽培ポイント

7年産では高温・干ばつによる青立ちや、カメムシ類の加害による被害が目立ちました。以下の対策を参考に、収量減収を防ぎましょう。

## 1. 高温・干ばつ対策

開花期～登熟期には要水量が多くなり灌水等が必要になります。

※水田活用大豆栽培では、灌水できる圃場ばかりではないため対策を講じる必要があります。大豆が水分ストレスを受けて、葉がねじれ裏返ってからでは遅いため、7日程度降雨が無い場合に以下の対策を行いましょう

### ◆畝間かん水が可能な圃場

- ・ 灌水を日中に行うと高温による根腐れ、夜間に行うと過湿による病気の発生を助長するので、早朝に実施しましょう。
- ・ 長時間水が停滞すると湿害が生じるため、できるだけ大量の水で畝を区切り、うね高1/2～1/3まで通水し、早期に排水しましょう。明渠を設置している場合は、明渠のうね肩までに通水し、畝間に水がしみてきた段階で排水しましょう。

### ◆暗渠排水がある圃場

- ・ 高温寡雨の予報であれば暗渠排水の蓋を閉め、土中の水分確保を図りましょう。

## 2. カメムシ類対策

### ◆若莢期(1回目)と子実肥大期(2回目)は、必須防除として実施しましょう。

- ・ 若莢期には、紫斑病への殺菌剤とカメムシ類、ハスモンヨトウへの殺虫剤による防除を徹底しましょう。
- ・ 子実肥大期には、カメムシ類、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシへの殺虫剤による防除を徹底しましょう。
- ・ 病害虫防除所の情報及び圃場確認による追加防除剤の選定を行いましょう。

### ●防除体系

防除区分	薬剤名	適用病害虫名	使用方法	使用時期
1回目 (若莢期)	ファンタジスタフロアブル	紫斑病等	散布及び空散	収穫7日前まで
	トレボンエアー	カメムシ類、マメシクイガ、 ハスモンヨトウ等	空散	収穫14日前まで
2回目 (子実肥大期)	スタークル液剤10	カメムシ類	散布及び空散	収穫7日前まで
	スタークルメイト液剤10	ダイズサヤタマバエ フタスジヒメハムシ等		
	プロフレアSC	ハスモンヨトウ フタスジヒメハムシ等	散布及び空散	収穫前日まで

※空散は高濃度散布適用薬剤

## ●防除体系の変更

防除区分	薬剤名	使用方法
1回目 耕起前または播種前まで	ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布
2回目 播種後出芽前	エコトップP乳剤	全面土壌散布
	エコトップP細粒剤	
3回目 大豆2葉期～開花前	大豆バサグラン液剤	雑草茎葉散布 または全面散布 (収穫45日前まで)
	アタックショット乳剤	
雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期	ポルトフロアブル	雑草茎葉散布 または全面散布 (収穫30日前まで)



防除区分	薬剤名	使用方法
1回目 耕起前または播種前まで	ラウンドアップマックスロード (一年生雑草)	雑草茎葉散布
2回目 播種後出芽前	ラクサー乳剤 (一年生雑草)	全面土壌散布
	ラクサー粒剤 (一年生雑草)	
3回目 大豆2葉期～開花期	大豆バサグラン液剤 (一年生雑草イネ科除く)	雑草茎葉散布 または全面散布 (収穫45日前まで)
雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期	ポルトフロアブル (一年生イネ科雑草)	雑草茎葉散布 または全面散布 (収穫30日前まで)

区分	薬剤名	有効な雑草
1回目	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草
2回目	ラクサー乳/粒剤	タデ、ホオズキ類
	大豆バサグラン液剤	アメリカセンダングサ、タデ類
3回目	ポルトフロアブル	一年生雑草

★昨年まで設計しておりましたホオズキ類に高い効果を示す茎葉処理剤（アタックショット乳剤）が製造中止となり、代替の除草剤を現在模索中です。

### ●変更する薬剤について

#### 【ラクサー乳/粒剤】

- 大豆播種直後の土壌処理剤  
→これまでと大きな違いはありません。細粒機のダイヤルはほぼ同じですが、作業途中での確認をお勧めします。（ラクサーの方がわずかに落下量が少ない傾向があります。）
- タデやイヌホウズキ・ヒロハフウリンホウズキに高い効果を示すほか、ツユクサにも効果があります。  
→既存剤（エコトップ）と比較して除草効果が優れます。
- 発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、雑草発生前の散布が重要です。
- 使用上の注意事項はエコトップと変わりありませんが、散布直後の降雨量によっては、薬剤が大豆種子に触れ発芽不良の可能性があります。  
→播種後2～3日経つと、薬剤が土壌吸着・土がしまるため降雨によるリスクは低くなります。